

農業者が主役になれるまちづくり

○研修概要

現地自治体との農業、ブランディング、食育に関する意見交換及びアグリツーリズム体験及びレクチャーを受けた。

〈文化、観光、食、農業を複合的に絡めたブランディング戦略（トスカーナ州）〉

トスカーナ州ではその土地にある農作物や食文化、遺産などの個々の魅力を高め、また一体的にブランディングすることで州全体の価値向上が図られていた。



〈食文化と農業を継承していくための食育の実践（プーリア州）〉

農業者による食育を実践することで、農家の収入形態を増やし、地産地消も図られていた。



○佐賀県及び嬉野市における農業の課題

- ・ 農業産出額の減少
- ・ 農業所得の減少
- ・ 担い手の減少及び農業者の高齢化
- ・ 耕作放棄地の増加

この中でも農業所得の減少は、新規参入者が来ない、後継者不足といった問題を招き、担い手の減少や農業者の高齢化を推し進める要因となっている。

○課題解決に向けて

農家所得減少を解決するための取組として、地域の農作物が地域で消費されていない現状を改善するには、地域の農作物を地域で消費するための仕組みづくりを行う必要がある。

【現状】

地域での消費 ≠ 地域での生産



【将来】

地域での消費 = 地域での生産

この取り組みにより

- ①地域内での安定的な消費を確保
 - ②地域内で流通させることによる流通コストの削減
 - ③市内の商工業者と連携し農作物の付加価値を高め、地域全体の農作物のブランド化
- の3点を図ることができ、農家所得の向上が可能となる。

○提案 (1) 「地産地消の実践」

地産地消とは…「地域での生産に着目」

地域で生産されたものをその地域で消費するという考え方。

プーリア州では食育を通じ、農業者がその土地に根付く食文化を子供たちに教えることにより地産地消を促している。

～農業者による食育の実践～

農業者による食育を実施することで食農文化の承継を図り、また直販体制も整備することにより地産地消の環境を整える。

- ①農業者による食育プログラムの募集
- ②食育プログラムの認定

【メリット】

- ・体験料の収入が見込める。
- ・直販体制を整備することで直接的な収入が見込める。

【デメリット】

- ・農家の労働が増える。
- ・直販体制を整備する場合の費用負担が発生する。

市の支援として、取組んでいる農家を内外的にPRする等、県や市の補助事業等を活用することで農家の負担を軽減する。

○提案 (2) 「地消地産の実践」

地消地産とは…「地域での消費に着目」

地域での需要動向を把握し、地域で安定的な生産体制を確立することで、地域で消費するものを地域で生産するという考え方。

トスカーナ州が認定するアグリツーリズム（農泊）で提供される料理は全てトスカーナ州で生産されたものが使用されている。

～「嬉野市地消地産推進協議会」の発足～

嬉野市、県、JA で構成する嬉野市の旅館や飲食店また市民などによる農作物の需要動向を調査し、栽培等について検討する組織を設立する。

(取組)

- ①市内の旅館・飲食店・市民に対して需要調査
- ②協議会内で需要品目の生産について検討
- ③決定した品目について国の助成制度を活用し支援
- ①～③の取組により地域内での消費と生産をつなげる！！

～嬉野市における取組～

- ①地域の生産物を取り扱う市内の飲食店・旅館の認定
- ②飲食店・旅館における市内産の食材又は生産者を PR
- ③PR するための費用の助成
- ①～③の取組により食と農業者のタイアップを図る！！

○まとめ

地域で消費されるものを地域で生産されたものに変えていき、地域での安定した消費を確保することは、生産者である農業者にとっても安定した収入を確保できる。

また地域内で流通させることにより流通コストの削減が図られ、合わせて市内の商工業者と連携し農作物の付加価値を高め、地域全体の農作物のブランド化を図ることで農業者の所得向上にもつながる。

それを実現させるために、

「地産地消の実践」、(農業者による食育)

「地消地産の実践」(地域における飲食店や旅館と連携)

を提案する。